

1.基本構想の目的・位置づけ

・目的

戸田市立西部福祉センター・美笹公民館は、昭和47（1972）年の開館以降、美女木地区を中心としたコミュニティ活動の拠点として利用されてきました。

しかしながら、建築から53年が経過し、福祉センターの中では最も施設の老朽化が著しく、利用者の減少や固定化などの課題がある状況です。

本基本構想ではこれらの課題を踏まえ、西部福祉センターのあり方を見直し、地域の新たな拠点となる再整備するため、西部福祉センターにおける再整備の方針や施設整備の考え方、事業の進め方などを示すものです。

・位置づけ

福祉センター再編方針及び関連施策を基に、各福祉センターとの整合を図りながら、再整備基本構想の検討を進めます。

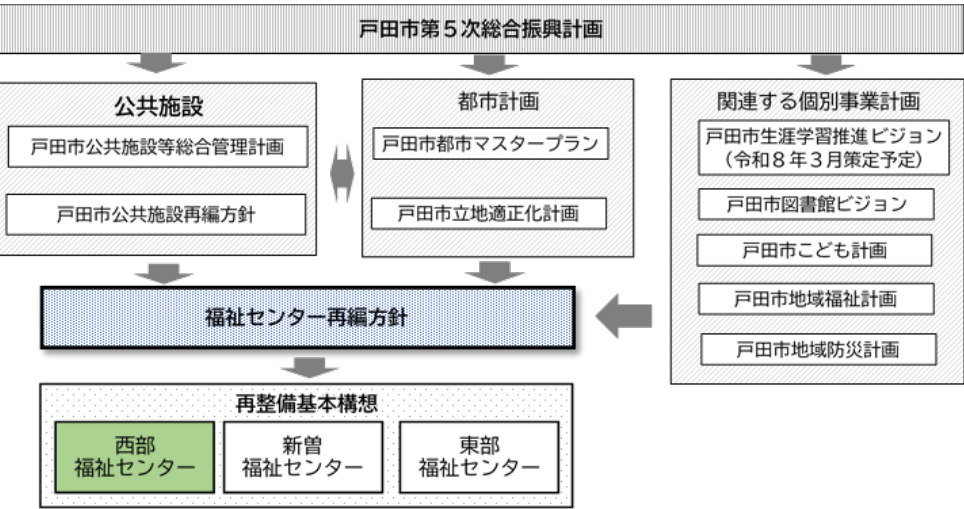


図 西部福祉センター再整備基本構想の位置づけ

2.西部福祉センターの現状

- 西部福祉センターは、美笹支所や美笹公民館、図書館美笹分室などで構成する複合施設です。
- また、親子ふれあい広場や西すてっぴなどの施設を有効活用している事業のほか、避難所としても活用されています。

表 施設の緒元

所在地	戸田市美女木5-2-6
建築年	1972年(築53年)
構造・階数	RC造・3階建
建築面積／延床面積	907㎡／2,074㎡
敷地面積	3,021㎡



図 施設の外観

表 福祉センターの諸室

階数	室名	室面積
1階	西部福祉センター（美笹公民館）事務所	58.0㎡
	美笹支所	60.5㎡
	第1会議室	51.0㎡
	老人いこいの室	135.0㎡
	機能回復訓練室	28.0㎡
	浴室	37.5㎡
2階	第2会議室	38.5㎡
	料理室	77.0㎡
	図書館美笹分室	77.0㎡
	展示ホール	77.0㎡
	親子ふれあい広場	38.5㎡
3階	大会議室	181.5㎡
	講習会室	77.0㎡
	第3会議室	38.5㎡
	茶華道室	57.75㎡

表 西部福祉センターで実施されている事業の概要

事業内容	提供サービス	概要
①福祉センター・公民館	福祉サービス、生涯学習 等	・会議室や料理室、茶華道室、講習会室などの貸室の提供及び運営を行っています。 ・講座や展示等の実施をはじめ、育成サークル活動の支援など、地域の学びや交流の場として様々な活動を展開しています。
②複合施設としての事業	支所、連絡所	・行政窓口では、証明書の交付や住民異動、印鑑登録、マイナンバー関連などの申請手続きを行っています。
	図書館（室）	・資料の収集、登録、貸出業務等のサービスなどを行っています。
③施設を有効活用している主な事業	親子ふれあい広場	・0歳からおおむね3歳未満までの子どもとその保護者が自由に遊ぶことができる交流スペースです。
	不登校支援	・個別学習や個別相談のほか、野菜栽培や調理実習、制作活動、運動など様々な体験活動を行っています。
④避難施設としての活用	防災（避難所）	●洪水時の避難 ・指定緊急避難場所 ・一時待避所 ●地震時の避難 ・指定避難所

3.西部福祉センター再整備ワークショップ

再整備に向けて、ワークショップを開催し、施設利用のイメージや空間、配置、運営方針などについて地区住民の意向を把握しました。

表 ワークショップのまとめ

利用イメージ		
【交流・賑わいの場】 ・ 朝市やフリーマーケット、キッチンカーの出店など、多くの人が集まるイベントを定期的に開催し、地域のにぎわいを創出 ・ 月イチマルシェやラジオ体操、地域カフェなど、誰でも立ち寄れる 【子どもたちの居場所・学びの場】 ・ 子どもの居場所や学習スペース、仕事スペースを設け、家庭外でも安心して過ごせる環境を提供 ・ 子育て支援や娯楽室なども整備 【地域の特徴を活かした空間づくり】 ・ 地域の特徴を活かした空間づくり(彩湖・道満グリーンパーク等との緑のつながり) ・ 解放感の明るい空間 【居場所づくり】 ・ 中に入れば、静かに勉強や仕事ができる個別スペースや、個人の時間を楽しめる空間も充実 【防災への対応】 ・ 防災機能の充実		
空間イメージと配置		
新規要素	・ 広場や市民交流スペース、カフェラウンジが多い	
既存要素	・ 図書館や支所、会議室が多い	
活用の意見	・ 広場と交流スペース等の一体化や屋上空間の活用 ・ 図書館とワーキングスペースの一体化 ・ 防災にも利用できるスペースの確保 ・ 町会会館として利用できるスペース ・ 何でも使えたり、部屋を仕切ってフレキシブルに使う ・ 支所機能の継続 ・ センターの特徴付けが必要	
配置	上部階	・ フレキシブルに利用できる大会議室や図書館、軽体育室などを配置 ・ 防災備蓄倉庫を上階に配置
	1階部分	・ 支所機能の充実 ・ 老人いこいの室とキッズスペース、カフェを併設 ・ 高齢者利用のための和室や市民交流スペースを配置
	屋外空間	・ 屋外のイベント広場、カフェラウンジとの接続

4.再整備に向けた課題とニーズ

西部福祉センターの概況やワークショップの結果から、西部福祉センターにおける課題とニーズを整理します。

表 西部福祉センターの課題とニーズ

(1) 複合施設としての事業	
○美笹支所	・ マイナンバーカードの普及や各種手続きのオンライン化の状況を踏まえた支所機能の検討が必要 ・ ワークショップでの意見として、支所機能の継続がニーズとして求められている
○図書館美笹分室	・ 利用者の伸び悩みや利用者意見から、蔵書数を増やす等サービスの充実が必要 ・ 若者や子どもたちが過ごしやすい居場所づくりが必要 ・ 異なる機能を組み合わせた多世代交流の場が求められている（図書館と一体的なワーキングスペースや自習室、子育て支援のキッズスペースなど）
(2) 施設を有効活用している事業	
○不登校支援（西すてっぷ）	・ 平日は継続して開所しており、子どもたちが安心して勉強したり、心地よく過ごせるよう、専用室の検討が必要
(3) 既存機能以外でのニーズ	
○諸室の拡充	・ 気軽に運動できるマシンジムや鏡のあるダンススタジオ（運動スペース）、サークル活動の場となる音楽室、だれでも利用でき、多世代交流の場など地域ニーズへの対応

5. 将来像と基本方針

■ 将来像

多様な学びの環境、生活に不可欠な行政サービスを提供し、人々の交流によるにぎわいを創出する拠点であるとともに、子どもから高齢者まで全ての住民が思い思いの時間を過ごすことができる居場所とすることを目指します。

美笹地域のみんなの居場所にぎわい・くらし・まなびの拠点

■ 基本方針

① 4つの施設の一体化

- 西部福祉センター、美笹公民館、図書館美笹分室、美笹支所が一体となった複合施設として、各事業が連携し、コミュニティ、生涯学習、子育て支援、地域福祉、防災の5つの機能を提供します。

② 美笹地域のみんなの居場所

- 地域に開かれ、誰もが気軽に立ち寄ることができる開放的な空間とします。
- 一人からグループまで、全ての年代が、思い思いの時間を過ごせる空間とします。
- ユニバーサルデザインと環境に配慮します。

③ 住民・利用者・企業・行政の連携による管理運営

- 地域住民や利用者の参加により、地域に根差した管理運営を行います。
- 事業間の連携により、複合施設のメリットを活かしたサービスを提供します。
- 民間活力導入により、高質なサービスの提供と、効率的な管理運営、コスト縮減を目指します。

6. 今後の検討に向けて

- 本基本構想を受けて、建設場所の選定を進め、施設の機能や規模、提供する事業やサービス等の検討のほか、ゾーニングや事業費、事業手法やスケジュール等を基本計画において決定します。その後、設計、施工、管理運営体制の整備を進めていきます。

表 今後の検討事項

施設の位置づけ	
条例の改正	再編にともなう福祉センターと公民館の条例の廃止と新たな交流施設の条例の制定
名称の検討	市民に親しまれる名称の検討
整備条件	
敷地の選定	整備方針を踏まえ、立地や周辺環境、地域ニーズ等総合的に判断した敷地の選定
敷地条件を踏まえた具体的な再整備内容の検討	規模や配置、空間構成など具体的な整備内容を示す基本計画の作成
管理運営	
官民連携手法の導入可能性	民間事業者へのサウンディング調査の実施による事業手法の検討
管理運営体制の検討	地域利用者等の参画方法や所管課の連携体制の検討
利用料金の検討	施設の安定的な運営と公平な受益者負担の観点から、利用料金を検討